



広島大学留学生センター

## 日本語研修コース



だれがいて  
だれが  
いないか  
わかる？



第37期

2003年10月～2004年3月

成果発表会

2004年3月2日

## 目次

1. わたしの日本での初めてのけいけん  
アミリ・パーマン・ジャッバリアン (イラン).....1
2. ジャングルたんけん  
シャーマン・パトリック・ウィリアム・アダム (イギリス).....4
3. 幸せな季節  
デンボン・パッタナセターノン (タイ).....7
4. 銀閣寺  
サイズ・モヌテネン・エリセ (スペイン).....10
5. ミャンマーの水かけまつり  
ミン・ミン・チ (ミャンマー).....13
6. 私と日本との縁  
崔観順 (韓国).....16
7. 私と日本  
チョ・チュキ (韓国).....20
8. 私の広島大学での生活  
朱東斌 (中国).....24
9. いつでもチャレンジ  
ワカヤ・メリ・ナンピンド (ケニア).....27
10. 私の日本でのけいけん  
ファレス・イラリオ・フェリベ (メキシコ).....30
11. 日本に来てから  
ゴマル・マティアス・サルバドル (アルゼンチン).....33
12. 私について  
ジャムサンティア・ウオラボン (タイ).....37

わたしの日本での初めてのけいけん

アミリ・バーマン

みなさん、こんにちは。

わたしはバーマンです。九月みっかにイラソから日本へまいりました。はじめて日本へきたのは1999年5月でした。そのとき、わたしはJICAのけんしゅうせじとして、日本へきました。それは、ぜんぶでいっかげつかんとうきょうにとまりました。日本と日本のぶんかについてたくさんならびました。

しかし、わたしの日本と日本人のちしきはじゅうぶんではなかったようです。4年たって、広島にきて、たくさんのできごとがわたしにおこりました。いまでも、いつもそのことをおもいだし、たのしくおもいます。

ごまじのようには、学生のせじかつはけんしゅうせじのとたじへんちがります。けんしゅうせじなら、ひとがいつもたくさんたすけてくれます。たとえば、けんしゅうせじにはつうやくがります。しかし、たくさんもんだい

がおこります。

学生のせいかつのもんだいは日本語です。日本語はヨーロッパのことばとおなじではありません。だからすべてのものをまねばなげればなりません。とくに、かんじはたいせつです。べつのもんだいは日本語にはよく<sup>た</sup>におことばがあります。たとえば、「たてもの」と「たべもの」です。なぜ日本人はかんじをつかっているのか、いまならわかります。

たくさんのものは日本にあるとすべてのがいこく人はがっかりします。たとえば、日本にきてから、たくさんのおしらせのてがみをもらいます。たとえば、ガスがいしや、NTT、などです。ぜんぶ、かんじがつかわれていきます。ですから、なにもわかりません。

しかし、こくさいリゅうがくせいのチューターがてつだってくれます。

わたしは日本語けんしゅうコースのベンキようをはじめたとき、おもっていたことがぜんぜんかけませんでした。日本語けんしゅう

コースのおわるころにやはりわたしは日本語  
をかくことができません。

わたしは日本語のちしきをもりました。  
せんせいがたにかんしゃします。

ジャングルたんけん

パトリック・シャーマン

みなさんこんにちは。私はパトリック・シャーマンです。私のジャングルたんけんについて話します。

1999年の夏に南アメリカを旅行しました。たくさんの町に行きました。その中の一つがペルーのイキトスです。ジャングルの中にイキトスという町があります。イキトスとよなりの町の間には、道がありません。いどうはボートでしています。イキトスという町をポイントにして、人々はたんけんを始めます。

イキトスに住んでいるアマレスさんという人に会いました。アマレスさんはガイドの見習いでした。アマレスさんと私は友達になりました。私たちは「いつかたんけんしよう」と計画をたてました。

それから、2000年の冬、私はイキトスにもう一度行きました。アマレスさんと私はイキトスで貨物用のボートにのって、ジャングル

に入りました。ボートで、夜川上へ行きました。かりちゅうでんとうをつけると、川の中  
にいるワニの目が見えました。さいごの村に  
ボートをとめました。私たちはおりました。  
そしてボートはイキトスに帰りました。その  
時私たちは町から300キロはなれていました。

村でカメラを買いました。つぎの四週間、  
アマレスさんと私はジャングルをたんけんし  
ました。何日もカメラにのりました。そして  
たくさんの村をほうもんしました。村へとう  
ちやくしたとき、みんなはとてもやさしかっ  
たです。かれらはアチュアというぶぞくです。  
アチュアはじぶんのこたばを話します。だか  
ら、コミュニケーションはむずかしかったで  
す。でも、すべての村で食べ物とねる所をじ  
ゅんびしてくれました。たくさんのアチュア  
は白人を見たことがありませんでした。アチ  
ュアにとって、私はとてもきみょうなそんざ  
いでした。かれらはおもしろいしつもんをし  
ました。イギリスは川下にあると考えていま

した。そして全世界はジャングルだと考えていました。

カヌーにのってジャングルに住んでみてたいへんでした。あぶなり動物がたくさんいました。ワニやヘビや蚊やピラニアがいました。川でピラニアといっしょに泳ぎました。そしてジャングルでヘビにかこまれて、かりをしました。四週間あつとで、私たちはイキトスに帰りました。帰つたあと、安心しました。私にとってジャングルに住んだことは、とてもよいけいけんとなりました。ジャングルはいちばんきれいな所です。また、ゆうきとしぜんへのかんしゃを学びました。いつか、もう一度私はジャングルへ行きたいです。

ありがとうございました。



## 幸せな季節

デソボン・パッタナセターノン

みなさん、こんにちわ。私はデソボン・パッタナセターノンと申します。タイから参りました。

日本は私の夢の国です。去年10月3日に日本へ着きました。その時は色々なことがあって、とても忙しかったです。だから日本人の友達には私を大変よく助けてくれました。寂しいという気持ちは全く起こりませんでした。日本へ着いて第二週めからの勉強はとても面白くて楽しかったです。一方で日本語の難しさが私を少し苦しめました。しかし先生の親切と熱意で頑張りました。

まず、毎日、日本人はいつも「今日はいいい天気ですね。」と一緒に話すのです。「どうして天気のことによく話されますか。」と心の中に疑問が起こりました。

ある日、早く起きて、バルコニーに出ました。このあたり一面の山や松林や田んぼなど

が見えました。山々には霞が掛っていました。とてもみはらしがよくてきれいな光景で、大変印象的でした。

日本の天気は毎日ちがいます。時々、朝、曇っていても、雨が降らないことがありました。時々、朝はいい天気でも、晩は雨が降ることがありました。ですから私は毎日傘を持っていなければなりませんでした。

私にとって日本で初めての秋はその美しさに感動しました。毎週末、いつも鏡山公園を散歩しました。山には色々な木々の葉が赤や黄色に色付いていました。さらに、宮島を見学しました。そこは紅葉がとてもきれいでした。うっすらと陽が射して来ました。静かに風が吹いていました。木々の葉がゆっくりと揺れていました。涼しくて本当に素晴しかったです。

12月になりました。木々の葉がたくさん散って、冬が始まりました。だんだん寒くなりました。

ある日、雪が降りました。殆どの場所が真っ白な雪で覆われていました。まるで「キタロー」の音楽の世界にいるかのようでした。

冬休みにはどこへも行きませんでした。クリスマスと新年は全く寂しくなりました。クリスマスの夜と大晦日の夜、私と友達はお酒を一緒に飲みました。勉強がうまくいくようにお互いに祈りました。その夜はとても寒かったのに暖かい友情で心が温かくなりました。この思い出は決して忘れられません。

日本人は自然と共に暮していることが分かりました。日本に来て、秋と冬が終わりました。今、私は春と夏を待っています。四季の変化はもちろん素晴らしくて幸せな思い出になるでしょう。

私は日本に住むという貴重な機会とよい経験を与えられました。

最後に日本政府、日本の先生、ホストファミリーと友達皆に感謝したいです。

本当にありがとうございました。

## 銀閣寺

エリセ・サイズ・モヌテネン

私は、冬休みに京都へ行きました。そしてたくさんの寺へ行きました。中でも、銀閣寺がいちばん好きでした。銀閣寺は東山にあります。1482年に銀閣寺はあしかがよしまさによって建てられました。お祖父さんの金はつくられました。そして、まごのよしまさは銀で建てたのをほしがりました。でも、けっして銀でおおうことができませんでした。

よしまさは、たくさんせんそうをして、つかれたようでした。よしまさはしずかなところにすみたがりました。銀閣寺でいけばなやちゃのゆやこうなどを見たのしみました。よしまさがなくなると、た後で銀閣寺は「ぜん寺」になりました。

このしずかなところには銀閣寺だけでなく、「とうぐどろ」や「かれさんすい」があります。銀閣寺は「かんのんでん」とよばれました。い、わいの「しんくうでん」は、「しよ

いんづくり」です。「しよいんづくり」は、日本のいえのけんちくようしきです。にかいは「ちよおんかく」です。ここにかんのんぼとつがあります。

「とうぐどう」は日本にあるいちばん古い「しよいんづくり」のたてものです。このたてものの中に「そうあん」ふうのちゃしつがあります。日本でいちばんさいしよの「そうあん」ふうのちゃしつです。この「そうあん」ふうのちゃしつは日本中に広まりました。

「かれさんすい」にはふたつのがたちがあります。「ざんしゃだん」と「こうげつだい」といいます。「ざんしゃだん」は海のように見えます。「こうげつだい」は山のように見えます。

こいえんのきほんてきぎ木は松です。ですから、こいえんにたぐさんの松があります。松はいつもみどり色で、「えいさゆう・ふへん」をしょうちようしています。それはかわりやすいしぜんにはんしています。

ていえんの松は、とてもよくせんていされ  
ています。まるで、強い風によつてすうしゅ  
るいのかたちにつくりかえられたようぢよ  
うたいになつています。

私は銀閣寺が大好きです。とくにていえん  
はそこにあるせんぶのものにしみがあるから  
です。そして、そのしょうちょうをは、けん  
ずることは、うつくしとのいちぶた"からです。

みなさん、どうもありがとうございました。

## ミャンマーの水かけまつり

ミイン ミイン 千

みなさん、こんにちは。私は留学生センターで日本語を勉強しているミインです。私はミャンマーの水かけまつりについで話したいと思います。水かけまつりはミャンマーでいちばん大きくてとてもゆうめいなまつりです。このまつりはミャンマー語で「ティンジャン」と言います。そのまつりはお正月にあります。

水かけまつりはミャンマーで500年前に始まったまつりです。いつもこのまつりは4月におこなわれます。4月はミャンマーカレンダーでダグー月です。お正月です。人々は古い年から新しい年にもうすぐかわりますというかんじでまつりを楽しみます。水かけまつりはミャンマーカレンダーによると4日間あります。全国で、水かけまつりがおこなわれます。色々なところで、ステージにわかいびじんたちが同じデザインと同じ色のふくを着ておどります。まつりの間におどったり、う

たをうたったり、水をかけたりします。そして、まつりの間に咲くとくべつな花があります。その花は「パダック」と言います。この花は全国で日本のさくらのように一年に一回だけ咲きます。金色の花です。女の人はパダック花をかみにつけて人々に花びらと水をかけます。

水かけまつりの間に食べるお正月のおかしがあります。そのおかしは「モロエイボ」と言います。全国の色々なところでそのおかしをつくります。そのおかしはもちごめをつくって、かたちは日本のきびだんごとにしています。そのおかしの中にドライフルーツのなしをつめておゆでゆでてつくります。とてもあまくておいしいです。全国の色々なばしょで一日中モロエイボをあげたり、もろったり、うたをうたったり、水をかけたりします。まつりが終わってつぎの日はミャンマーのガングイツです。その日におとしよりのいえやろうじんホームなどに行くとかみや体を洗ったり、



つめきりをしたりします。また、お寺へ行ってきふをしたり、おぼうさんからほとけさまの教えをうけたり、おいのりをしたりします。それから、牛や鳥などさまざまな動物を自由にします。

ミャンマーの水かけまつりは国のきせつでいちばん暑い時におこなわれます。暑い時水をかけるとすずしくなります。新しい年に新しい気持ちでがんばってといういみでこの水かけまつりがおこなわれます。ミャンマーにいらっしゃる水かけまつりをたいけんなさったらみなさんの心が洗われてもっときれいになるかもしれません。どうぞいちどいらっしや、ください。

さいごに留学生センターの先生方、まえはら先生、ホストファミリーのお母さん、いっしょに日本語を勉強している友だち、色々どうもありがとうございました。



授は日本語が上手な、私より一年先輩を紹介してくださいました。その先輩から、私は日本語について最初の知識を習いました。しかし、その先輩は今から4年前に教員研修生として来日し、一年半、静岡大学で研修しました。指導教授も先輩も日本で留学経験があり、二人とも日本語が上手なので、私はぜひ日本に留学したい、日本語が上手になりたいと思いました。

また、その年の夏休みに東京で開かれた「青少年のための科学祭典」を見に行きました。この行事は毎年、日本の各地で子供たちに科学に興味を持たせるために開かれています。その当時、韓国ではそのような行事はありませんでした。私はさまざまの人が開発した実験に参加し、牛乳パックとレンズを使って、カメラを作り、「やった。これだ。」と思いました。今もそうですが、私はどうすれば生徒にとって面白い授業ができるかに対して悩んでいました。そんな私に「青少年のための

科学祭典は一条の光でした。その後、私はもう二回、日本を訪問して、たくさんのおい体験をして、日本に留学したいという願望はもっと強くなりました。

しかし、その後、私は修士課程を修了し、結婚し、博士課程に入り、高校の教師に戻りました。6年間、教師をしながら子供を育てていたので、なかなか日本に留学ができなかったのです。そうするうちに、2003年3月、日本文部科学省の教員研修コースの試験が行われ、受験しました。そのとき、私は数年前からずっと心の片隅に隠していた私の夢を実現する最後のチャンスだと思いました。もちろん、家族のことが気にかかっていたわけではなのですが、その試験を受けずにそのままやめれば、将来必ず後悔すると思いました。そうして留学試験を受け、幸いにも合格しました。そして、念願の夢が叶い、去年10月、やっと日本に留学してきました。

それで、日本への留学は、私にとって、大

変に珍しい機会なので、大切にしてください。ぜひ頑張ります。留学生センターの先生方、いろいろ教えてください。心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以上で私のスピーチを終わらせていただきます。

## 私と日本

千二 千二キ

私は1970年1月19日、韓国の慶尚南道山清郡というところで生まれました。そこで小学校、中学校に通って、高校と大学は大邱という韓国で3番目に大きな都市でひと暮らしをしながら卒業しました。子供の時から、と教師になりたいと思っていたので、慶北国立大学で地理教育を勉強しました。

その後、「大邱女子高校」で教師生活を始め、「大邱高校」の地理教師をしていて、文部科学省の招請で広島大学へ来る二つになりました。韓国では1年ぐらいの日本語を勉強しましたが、6か月間、日本語を勉強した後、教育研究科の社会認識教育科で1年間専門の勉強するつもりです。

私は6年前に結婚して4歳の男の子がひといます。妻と子供は今年3月、日本へ来る予定です。でも、私の妻と子供が日本に来たら、今私が住んでいる国際交流会館は出な

けたはなれません。日本は物価が高いので、私の奨学金だけでは家族3人が生活できるはずかと考えると、夜よく眠れません。また、妻と子供が日本の生活にうまく適応できるかどうかも心配ですが、家族みんなでがんばりたいと思います。

次は、私から見た日本の不思議な印象です。日本は先進国なのに韓国と比べると、交通手段として自転車を利用する人が多いと思います。これは韓国ではおまじ見られないことなので、私は日本の交通費が高いことが主な原因ではないかと思っています。自転車を通勤、通学、ショッピングなど、日常生活のために利用したら、経済的で、交通渋滞の緩和に効果があるかもしれません。しかし、持ち主のない自転車が路上に、つまり、歩道やバス停や、いろんな建物の駐輪場に放置されています。これらの自転車をみると、まるで韓国の歩道で「ジャマになってくる「布帳馬車；ホシヤマチャ」という屋台が思い出されて、残念

です。

自転車と関係して、また不思議なのは制服で短いスカートをはいた女子学生たちが何となく急にせお自転車に乗って走っていることです。韓国でこのような行為をしたら交番へつれていかれるでしょう。

次に不思議なのは日本の道路は夜、街路灯が暗いので、出かけるとき不安です。でも、日本人はおまじぎにしていらないようです。特に、広大の女子学生たちがとても暗い道を夜遅く歩いているのを見て驚きました。

それから、これは不思議なことではないのかもかもしれませんが、私が日本へ来たばかりのころ、広島市内を歩いて見物したことがありません。広島駅から原爆ドームまで歩いているとたくさん信号があるので、みんなぜんぜん信号が青になるのを待ちません。韓国では、道を歩いていてみんなを待つことがありません。

いつのころからか、道は人間のためにする



りではなく、車のためにするような感じにな  
ったと思いますが、日本では人間と車、どち  
ろが優先という二とはなく、両者が共存する  
ように設計されているように感じました。

日本へ来たばかりのころは不思議な二とが  
い、はいありました。今はだんだん私の生  
活の一部になりました。もっと日本の社会を  
理解するためにがんばりたいと思います。

## 私の広島大学での生活

朱東斌

私は広島大学の学生になって、嬉しいです。広島大学はとてもきれいで、私は好きです。去年の11月、工学部の近くのもみじがとてもきれいだと、私は感動しました。私は広島大学での生活は私にとって重要な意義があると思います。

日本に来る前に、私は日本語を習ったことがありませんでした。だから私はがんばらなければならぬと思いました。毎日授業があつて、忙しいですが、私は充実していると思います。また、新しい言語を習うのは面白いと思います。その中で、日本の社会と経済と文化が良くわかります。

私のクラスには10人留学生がいます。私たちはちがう国々から来ました。みんなは一緒に勉強して、がんばっています。私たちの先生がたも骨を折って教えてくださいます。先生がたから私が習ったのは日本語だけではない

く、その勤勉な態度も習います。私は日本人の勤勉な態度があるから、日本は経済力の大きい国になったのだらうと思います。

私は見学が好きです。それは日本が良くわかるいい方法だからです。私は広島市に行ったことがあります。原爆ドームと平和記念館に行ったことがあります。その巨大な災難を見ると、私の心はふるえました。私は世界の人々みんなせんそうをはんたいすべきだと思います。

私は錦帯橋と帝釈峡と岡山県の後樂園などにも行きました。とてもきれいだと思います。日本は環境と歴史遺跡の保護をとても重視します。それはとても重要です。

私は日本料理になれました。特に刺身とお寿司が大好きです。でも、中華料理もなつかしいです。日本酒もおいしいです。はじめて飲んだ時、あまり味がなかったです。でも、今おいしくなったと感じました。西条のお酒は日本で有名です。私は去年の酒祭りに行き

ました。とても面白かったです。私はこれも日本の文化だと思います。

私の日本での半年間はずいぶん楽しい半年間でした。最後に先生たちはとても親切に教えてくださいました。どうもありがとうございました。

りつでもチャレンジ

メリー・ナンビンド・ワカヤ

みなさん、こんにちは。わたくしはメリー・ナンビンド・ワカヤと申します。去年の十月にケニアからまいりました。日本に来てから今月で5カ月になります。

私のさいしょのチャレンジは日本語の勉強でした。私は国で日本語をぜんぜん勉強したことがありませんでした。広島大学に来て初めて日本語を勉強しました。

色々な先生は楽しくてしんせつです。でも、時々、早く教えるのでわかりませんでした。私が日本語を勉強したクラスには留学生が10人いました。じゅぎょうは毎日、朝9時55分に始まって、4時40分に終わりました。じゅぎょうはおもしろかったですか、つかれました。毎日しゅくだいができました。

ぶんぽうやリーダーの勉強だけではなく、ヒヤリングのれんしゅうをしたり、ビデオを

見て日本語のれんしゅうをしたりしました。私たちはみんな「ヤンさん」のビデオが大好きです。今、日本語で少し話せます。

また、べつのチャレンジは自転車にのることでした。私は今まで自転車にのったことがありませんでしたが、こちらに来てからは毎日大学まで自転車でかよいました。それで、体がとてもじょうぶになりました。

私たちは時々金요일に見学がありました。あちこちゆうめいなところへ行きました。どの見学も楽しかったです。いつか銀行へ行った時のことです。たくさん漢字があるからお金がひきだせませんでした。今私は漢字やひらがななどが書けて、話めて、言えます。

ホストファミリーのプログラムはとてもいいと思いました。ホストファミリーについては初めは少し不安でしたが、今お母さんとお父さんは私の友達です。時々おたくにもおじゃましました。ゆうめいなところへつれて行ってくださいました。とても楽しかったです。

初め日本の料理はあまり食べられませんでした。たとえば、さしみです。いっぱんに魚料理もあまり好きではありませんでした。そして、私の日本人の友達<sup>たち</sup>は日本の色々な料理を<sup>ご</sup>ちそうしてくれました。今はさしみ<sup>り</sup>がいはなんでも食べます。広島のおこのみやきは大好きです。

また、私の友達はまきずしの作り方を教えてくれました。だから、まきずしを作ることがあります。楽しいです。いろいろけりけんをしたので今私は日本のことが少しわかります。これから、一年ぐらい日本でくらすので、日本のことがもっとよくわかるでしょう。私は今まで冬のきせつはけりけんしたことがありませんでしたが、ことしの冬はいきのびました。

留学生センターの先生方、小山正孝先生、ホストファミリーのみなさん色々ありがとうございました。お元気で。

私の日本でのけいけん

フェリペ・ファレス・イラリオ

みちさん、こんにちは。

私の名前はフェリペ・ファレスです。しご  
きはきょうしです。2003年10月8日、メキシ  
コからすばらしい日本へまいりました。私の  
ねがいは、日本のぶんかやでんとうやぎじゅ  
つをすることです。でも、私は、もつと日本  
のきょういくをしりたいと思い、日本にリゆ  
うがくしました。私は、たくさんのご話を話  
したいです。でも、日本語は少しむずかしい  
です。でもから今日は私の気持ちをみじかに  
ことばで話します。

私はメキシコのテレビとしんぶんて日本を  
少ししってしました。日本では、物がとても  
高いこと、すもうをすること、さむらいがいた  
こと、そして日本のぎじゅつをつか、てメ  
キシコで作られた「トヨタ」と「ニッサン」  
の車がたくさんはし、ていることなどです。

私がとてもきょうみを持っていたことは、



日本の人々がれいぎただしくて、しんせつであることです。そして、今、私はそのことがほんとうだと思いました。

日本へとうちやくしたとき、くうこうやホテルやデパートなどで私があつた日本人はとてもいい人たちでした。

広島大学のたいへんよいところは、どこのがくぶ・が、かのじむしょの人たちも、とてもしんせつだということです。図書館と食堂の人もしんせつです。スタッフと日本語コースの先生がたもしんせつです。みちさん、どうもありがうございました。

日本語のじゅぎょうはとてもおもしろかったです。でも、少しむずかしかったです。もと勉強して日本人とはやくかいわができるようになりたいです。

私が日本にきたのは小学校のすうがくきょいくのけんきゅうのたひです。このけんきゅうは2004年4月から2005年3月までです。

私のせんもんの先生は、うえだ先生です。

うえだ先生はとてもしんせつに教えてくださいます。

日本のことをテレビや本から勉強することより、ほんものを見てすばらしいけいけんがふきました。でも、じぶんのがぞくをメキシコに歩いてくることはむずかしかったです。けれどホストファミリーとあって私のがぞくを思いだして少しうれしくなりました。私のホストファミリーのてつろうさんと、くにこさんとはつみちゃんは私を家にまねいてくれてとてもたのしかったです。なぜなら、かれらはとても大ききな心で家のドアを開けてくれたからです。

冬休みに私はおおさがとやらときょうとへ行きました。でも、今、東京とほっかいどうへ行きたいと思っています。たぶん、つぎの休み東京へ行くつもりです。それから、来年は、ほっかいどうへ行きたいです。

みなさん、ありがとうございました。

日本に来てから

マテ、アス・ゴマル

作文をはじめて書きました。私は、日本語をたくさん話して聞きました。留学生たちは色々な国から来ました。アジア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパです。色々な文化とことば、食べ物としゅうかんが違います。

しかし、私たちは同じきもちになりました。私たちはみんな、日本の留学生です。それは新しいけいけんです。

私たちは、同じ物を食べて、同じことをべんきょうして、同じところへ行、て、同じ人に会、て、毎日同じところへ帰ります。

十月に日本に来ました。その前は、日本をあまりしりませんでした。たぶんだいじせかいたいせんについてだけ少しりかいていました。げんばくは一ばん心にのこりました。日本人が国をさいけんしたのはかんしんしました。みんなそれをわすれてはいけません。ざんこくなかこです。今アメリカのイラクへ

のこうげきはべつのはずかしいことです。忘れないでください。おねがいします。

私の国は、とてもきれいです。アルゼンチンの私は小学校の先生です。私の小学校はブエノス・アイレスの貧しいちいきにあります。私は日本に住んでいますからみんなに教え方を見せます。毎日アルゼンチンの小学校では先生たちは子供に書かせて、読ませて、教えます。子供のかぞくにはお金がありません。だから先生たちは子供を食べさせなければなりません。そして子供のしあわせがもっともたいせつです。

同じ先生のきもちを日本でみつけました。それは有名な所ではありません。私のしどうきょうかんの曾余田先生がながさこ小学校という小学校へつれていってくださいました。ながさこ小学校は古い所があるようです。呉のみなとの近くです。こうちょう先生の名前は村上先生です。先生はともしんせつな女の人です。いつもほほえんでいます。色々な先

生に会いました。みんなすばらしい先生です。たくさんのごことを教えてくださいました。でもぜんぶ日本語でしたから私はあまりわかりませんでした。

先生たちはたくさんのお時間をつかって、お教え方をべんきょうしていただきました。きょうしつでは、子供にもういぶんかくなります。先生たちは花がそだつのを見るように子供たちを見ています。それはいいことです。

私は二年生のさんすうクラスに行きました。子供たちはとてもしゅうちゅうしているようです。子供たちは、いっしょにべんきょうしていただきました。

その日私もなさいました。さいごの時間にありがみのさいふをおみかげにもらいました。

また多くのしんせつな人に会いました。私は忘れたくありません。

私のホストファミリー：まゆみさんとひでひろさん。まゆみさんとひでひろさんは私の日本のかぞくです。どうもありがとうございます。

ます。

曾余田先生と金川さんと友田さんとあださんはにんたいづよい人です。ありがとうございます。

さいごに、私の先生たちは話をよく聞いてくださいました。ありがとうございました。

みなさん、またこんど。どうもありがとうございました。

私について

ウォラポン・ジャムサンティア  
みなさま、こんにちは。私はウォラポン・  
ジャムサンティアともうします。タイからま  
いりました。去年の10月2日に日本へ来まし  
た。タイでは私の専門は微生物学でした。日  
本に来る前に日本語の勉強をしたことはあり  
ませんでした。ですから、その時には日本語  
はぜんぜんわかりませんでした。日本につい  
た時は私は九日間山中会館に住んでいました。  
それから、ずっとアパートに住んでいます。  
私のアパートはちょっと遠いですが、静かで  
す。毎日自転車で大学へ来ます。私はタイに  
いた時自転車に乗ったことはありませんでし  
た。そして、はじめて自転車に乗りました。  
私のチューターは私に自転車の乗り方を教え  
てくれました。たいへんでした。しかし、今  
はだいじょうぶです。日本で色々なことが私  
のはじめてのけりけんです。たとえば、自転  
車に乗ったり、せんたくしたり、料理を作っ

たりすることです。でも面白いです。

また、私は日本に来てはじめてきらくに食事ができました。なぜなら、ほとんどのタイの食べ物はからいですが、私はからい物があまり食べられないからです。たとえば、タイの有名なトムヤムクンを食べると、おなかが痛くなります。日本にいるとたくさんおいしい物が食べられるので、私はとてもうれしいです。それで、和食が好きです。日本に来て二か月で十キロふとりました。よかったです。

ところで、日本にいる時にいつも支えてくれる人たちがいます。まず、私のホストファミリーです。私のホストファミリーはよく私をさそってくださいます。色々なところに連れて行って日本の文化や日本の習慣も教えてくださいました。私に問題がある時に相談にのってくださいます。いつも親切にめんどうをみてくれて本当にしあわせです。

そして、留学生センターの先生方にもかんしゃしています。先生方に日本語を勉強する



チャンスにあたえられました。留学生センターの先生方もとても親切でみんなのために日本語をねっしんに教えてくださいました。私がここまで来られたのはみなさまのおかげです。

さいごにこのスピーチを聞いてくださってありがとうございます。